

認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会だより

“友よ”

リーバー フロイント

Lieber Freund

発行：認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会事務局

TEL 088-686-9999 FAX 088-686-9994

http://www.naruto-9.com/ E-mail: kanki@naruto-9.com

vol.15

2015年8月23日発行

第34回ベートーヴェン「第九」交響曲演奏会

橋を渡り仲間が集う鳴門の第九。指揮者は海を渡ってドイツから

“大鳴門橋開通30周年記念”第34回ベートーヴェン「第九」交響曲演奏会が、平成27年6月7日、鳴門市文化会館において盛大に開催されました。今年も、開場の13時より1時間以上も前から、大勢の第九ファンの皆様が延々と並んで開場を待ちわびてくださる様子を、胸を熱くしながら拝見いたしました。近年は毎年のようにこのような風景に接し、まずは、観客の皆様に心よりのお礼を申し上げます。

30年前に大鳴門橋、27年前に瀬戸大橋、15年前に明石海峡大橋が開通したお陰で、四国へ陸続きでお出でいただくことが出来、全日本「第九」を歌う会連合会発足につながったことを思いますと感無量でございます。

北海道から鹿児島までの全日本の鳴門第九を愛して下さる皆様、そして、今年もロサンゼルスから参加くださった方も含めて、577名（内 徳島県180名）で、声高らかに歌う歓喜の大合唱が実現いたしました。

鳴門市の姉妹都市リューネブルクから遠路二度にわたり鳴門へ駆けつけ、ご指導くださったトーマス・ドーシュ氏の人気は素晴らしく、多くの方から今年の鳴門第九の完成度が高かったことをお聞きしました。オーディションを見事にクリアされたフレッシュなソリスト、素敵なオーケストラの音色を響かせてくださった徳島交響楽団の方々と、全国から集まってくださった合唱団員が一体となって、感動の大舞台となりました。



頃安利秀先生の通訳でレッスンを進みました。本番は「アウトバートン（ドイツの高速道路）を一気に駆け抜けるような」エネルギーが感じられる演奏だったと頃安先生



姉妹都市リューネブルグ市立劇場の音楽監督であるドーシュ氏。エネルギーが印象的かつ非常に理知的な音楽づくりが印象的

更に忘れてはならないのが、裏方さんの活躍です。鳴門の出演者すべてが一人一役でボランティアに携わってくださいます。そして、出演しない方も、第九を応援して下さる温かいお気持ちから、出演者では手がまわらない裏のお仕事を気持ちよくこなして下さいます。

このように、舞台の700余名と裏方数十名の大きな力が一つになって、今年も34回目の舞台の幕を下ろすことが出来ました。

今年の新しい試みとして、アフター交流会が、会場を鳴門市民会館に移して実施されました。今回は、鳴門市を代表する多くの有名店の方々のご協力をいただいて、ひと味違った交流会となりました。初めてのことでご批判、ご意見もおありのことと存じますが、今年の反省点の上に立って、来年は、百周年に向かってよりスムーズに楽しい交流の輪が広がりますよう工夫を重ねたいと思っています。

「美術館でなるとの第九」も第5回となりました。これも多くの市民が待ちわびてくれています。出演くださった皆様、ご協力ありがとうございました。

（認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会

理事長 大塚 道子）

鳴門「第九」にまたひとつ名物誕生！ 鳴門の誇る味が勢揃いした 「アフター交流会」



第34回第九演奏会終了後、アフター交流会という新しい名称とともに、交流会への新しい試みが実行されました。

十数年にわたって実施された交流会は、第1部を文化会館でセレモニーとして鳴門市長、指揮者、ソリストのお話、全員合唱など、第2部の懇親会は隣接の老人福祉センターで鳴門市の産物を味わい、参加者による歌やお話、最後に全員で阿波おどりを踊ってお開きにする、というものでした。

交流会場が手狭になり、鳴門で宿泊する方々は、交流会終了後、鳴門市内のレストラン、あるいはホテルで夕食をするのは不便だ、交流会で夕食を兼ねてできるといいのに、という意見を参加者からお聞きしていました。さらに、鳴門市にとって、また、NPO法人鳴門「第九」を歌う会にとって一番大きな課題は、3年後に迎える「第九」アジア初演100周年の演奏会を全国の第九愛好者に、『永遠に語り継いでいただけるような演奏会と交流会』にしたい、ということでありました。

ゆったりとした会場で、鳴門の名産品を一流の料理人によって目の前で料理をしてもらい、全国の仲間と心ゆくまで語らい、食していただけることができれば、最高の交流会、お接待になるのではないかと考えました。

鳴門市は、100周年の諸行事を円滑に行うため、文化交流推進課内に「第九」ブランド化推進室を新設、職員を増員して対応することになりました。交流会についての新しい内容の計画・実施にも深く関わっていただきました。

①全国的知名度を誇る徳島ラーメン。鳴門の醤油を使った豚骨醤油スープが自慢です ②お祭りやお祝い事に欠かせない“お煮しめ”。名付けて「よろこびにしめ」で第九を盛り上げるあじさいelaganceの皆さん ③屋台での実演販売はやはり活気があります。お支払いはなんと第九WAONカードで「ワオ〜ん!! (毎度あり〜!)」 ④裏千家鳴交会の皆さんによるお茶とお菓子のおもてなし。ほら、お菓子も鳴門にちなんで渦巻いています



会場にて生放送中。ラジオ・パソコン・スマートフォンで楽しめます

さらに、鳴門市の観光事業の中核として役割を果たされておられる鳴門市観光コンベンションを中心として、観光事業関係者、エフエムびざん、テレビ鳴門など報道関係等々、鳴門市の総力を挙げての取り組みとなりました。

特に、夢のような、冒険的ともいえる交流会が実施できたのは、鳴門市の味自慢の料理店やレストラン、ホテルの皆様のご協力のお陰であります。また、お茶席を設け、抹茶と地元の銘菓でお世話いただいた「鳴交会」の先生方のご協力に心から感謝申し上げます。

本年の交流会は、なんと第九WAONカードを利用し、現金を使用しないという方法を実施いたしました。いろいろご意見をいただき、スムーズな利用をこれからも模索してまいりたいと考えています。

なんと第九WAONカードは、利用者にポイントがつくなど一般のカードと変わる事なく、その上に利用金額の0.1%が第九演奏会の振興資金として鳴門市に積み立てられていきます。ご理解を賜り、ご利用くださいますよう、改めてお願いいたします。

「いくら思い悩んでも、実行しなければ事は成就しない」「事をなし、反省し、さらに上を目指して努力することが解決に結びつく」—— 本年のアフター交流会は、この精神で実施いたしました。参加者からのアンケートも行い、来年の交流会の向上を目指して、今から努力していく覚悟でございます。

皆様の温かいご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。(文責 浅野 司郎)



合言葉は「100周年へカウントダウン」。新企画が続々と!

100周年に向け、いよいよカウントダウンが始まりました。鳴門「第九」を歌う会はもちろん、鳴門市の総力を上げてプロジェクトが動いています。

今年度の演奏会ではラッピングバスがお目見え。鳴門市マスコットキャラクター「うずしおくん」「うずひめちゃん」もPRに駆けつけました。徳島～阪神間を運行しながら「なるとで第九?なんでやねん」と、初演の地なるとをアピールします。

また、オリジナルグッズ開発も着々と! 今年の新商品はかわいい缶バッジ(1個100円)。Tシャツの新色サーモン



ピンクとともに人気を集めました。100周年記念グッズはピンバッジ?楽譜カバー?……開発チームが案を練っていますのでお楽しみに!

今年も美術館で第九演奏会 華やかに、荘厳に

大塚国際美術館での「美術館で“なるとの第九”」も早や5回目。特別価格1000円で入館でき、絵画鑑賞と演奏会の両方を楽しめるとあって年々盛況になっています。4人のソリストの歌曲やオペラアリア、鳴門「第九」練習ピアニスト・田村美保さんによるピアノ独奏に続き、トーマス・ドーシュ氏指揮による「第九」第4楽章と盛りだくさんのプログラム。音楽とアートの豪華な饗宴となりました。



↓ベートーヴェン作曲「第九」の演奏会。田村美保さんによるピアノ独奏に続き、トーマス・ドーシュ氏指揮による「第九」第4楽章と盛りだくさんのプログラム。音楽とアートの豪華な饗宴となりました。



「福島民報」で 平成27年6月13日掲載 鳴門の第九が紹介されました

論説 鳴門の「第九」 節目の百年へ、結集

ベートーベンの交響曲第九番を日本で初演した「第九」発祥の地、徳島県鳴門市で7日、34回目の第九演奏会が開かれた。3年後の平成30(2018)年には初演から100周年を迎え、鳴門、さらに、ゆかりの会津若松市で記念の演奏会が予定されている。鳴門公演は合唱団、オーケストラ、聴衆が一体となった情熱的な舞台となり、節目の年に向けカウントダウンが始まったことを強く実感した。

四国はもちろん、全日本「第九を歌う会」連合会に加盟する全国の50団体、580人が舞台に上がった。本県からは会津第九の会と、ふくしま第九「すみだ歌う会」に所属する愛好家11人がエントリーした。ステージの両脇まで使い、歌い手がびっしり並ぶ姿は壮観だった。

ドイツから招かれた指揮者トーマス・ドーシュさんは「これほどの規模はドイツでは信じられないこと。声の大きさにも驚いた」と終演後、感想を語った。ドイツで第九が演奏される場合、合唱は100人から150人程度が一般的という。「歓喜の歌」の有名な一節「フロイデ…」の正確な発音もたたえた。「音楽を通じ、世界の人がきょうだいになる」。ドーシュさんの言葉に感銘した。

第一次世界大戦中、鳴門市板東には俘虜収容所があり、約1000人のドイツ兵が収容されていた。会津若松市出身の松江豊寿所長は兵を人道的に扱い、母国の音楽を奏でることを許し、初演に結び付いた。泉理彦鳴門市長は松江所長の業績、さらにドイツ兵を受け入れた地域住民の姿を「友愛」と表現する。友愛の精神をたっとび、若者に引き継ぐことに第九を演奏し続ける意義があると思う。

アジア初演の地と位置付ける鳴門の人たちの士気は高く、全国の愛好家の心を鼓舞する。会津第九の会の会員は「鳴門で歌うことで連帯し会津の先人の偉業を痛感した」と演奏の余韻をかみしめた。

100周年の持つ意義は深い。前年の平成29年2月にはプレ企画として、鳴門市と姉妹都市関係にあるドイツのリュースネブルク市に全日本連合会が出向き、第九を歌う。本県から高校生、大学生ら若い世代が参加すれば、素晴らしい体験になるはずだ。会津第九の会が密接に関わる100周年の会津公演に期待が高まる。

松江所長を生み、今や合唱王国として名高い福島はもう一つの第九発祥の地として、気概を持っていい。偉大なる音楽遺産である第九への関心も今後、一層高めていきたい。(福島民報社東京支社長 荒木 英幸)

活動の記録

第九を通した音楽文化の普及、地域や全国の仲間との交流も私たちの大事な活動です。今年の活動の中から主なものをご紹介します。

県内研修

❖平成26年度総会＆研修会

2014. 7/27 於：鳴門市老人福祉センター
総会の後は、「第九アジア初演100周年ブランド化プロジェクト」についての講演、そして男声合唱団「メールハーモニー潮」のミニコンサートが行われました。鳴門第九指導者・大井美弥子さんの指揮で、「われは海の子」「青い小鳥」など日本の歌をア・カペラで次々と披露。男声合唱ならではの音色とハーモニー、息の合ったアンサンブルで会場を魅了しました。



若草色のブレザーも爽やかです

県外研修

❖第30回北海道「999人の第九」に参加

2014. 9/21 於：北海道・札幌コンサートホールKitara

❖2014「かがわ第九」演奏会に参加

2014. 11/2 於：香川県高松市・アルファあなぶきホール

❖サントリー 1万人の第九に参加

2014. 12/7 於：大阪府・大阪城ホール

❖第19回「感動の第九」ベトナム・ハノイ公演に参加

2015. 4/11 於：ベトナム・ハノイオペラハウス



写真提供／井原武四郎さん 在ハノイ日本人第九愛好家らとともにハノイオペラハウスに歓喜の歌を響かせました。

1995年に始まり、ニューヨークのカーネギーホールをはじめヨーロッパ各地で開催されてきたチャリティー公演『感動の第九』。初のアジア公演が、4月にベトナム・ハノイで行われ、鳴門第九からは4名が参加。ハノイ国立音楽院の学生、

その他行事

❖「抱腹!! 満腹!! 渦フェスタ」オープニングで第九♪

2015. 3/7 於：鳴門市亀浦観光港

大鳴門橋開通30周年記念行事の開幕を飾る「渦フェスタ」。小雨が降り、寒風ふきすさぶ悪天候にも負けず、真鍋美恵さんの指揮で有志57名による第九第4楽章ダイジェスト版を演奏。オープニングを盛り上げました。

潮の香ただよう早春の海辺で「第九」



コーラス9

❖第九の里コンサート 2014. 8/3 於：鳴門市ドイツ館
「草原の別れ」「昴」ほか 指揮：大井美弥子 ピアノ：向井真紀子

❖第21回ドイチェス・フェスト in なると

2014. 10/26 於：鳴門市ドイツ館
指揮：大井美弥子 ピアノ：平賀理絵

❖第38回鳴門市芸能祭 2014. 11/16 於：鳴門市文化会館

指揮：大井美弥子 ピアノ：平賀理絵

❖コーラス9 第9回演奏会「ニューイヤー・コンサート」

2015. 1/12 於：大塚ヴェガホール
会場を大塚ヴェガホールに移し、また年明け早々のコンサートという初めての試みでした。第1部はソリストによる歌曲、そして新春らしくオペラやオペレッタのアリアで華やかに、第2部はモーツァルト作曲「ドミニクス・ミサ」(抜粋)を演奏しました。
指揮：山田啓明 ソプラノ：真鍋美恵 メゾソプラノ：酒井美里
テノール：頃安利秀 バリトン：刘 宇 ピアノ：頃安三紀、三村加奈、平賀理絵 合唱指導：大井美弥子 合唱：コーラス9



Chorus9 結成15年&定期演奏会10回の節目

コーラス9の誕生は2001年8月。年間を通して合唱力を高め、声を合わせる楽しさをもっと味わいたい仲間が集まって結成しました。発足より15年間、厳しく楽しい大井美弥子先生のもと、ドイチェスフェスト in なるとをはじめ、いろんなイベントに要請に応じて出演しています。結成3年後よりほぼ毎年演奏会にも挑戦して、今回第10回を迎えます。演奏曲は、3年がかりで取り組んできたモーツァルト作曲「ドミニクス・ミサ」全曲。大勢の皆様のご来場をお待ち申し上げます。



第10回記念演奏会

2016. 1/11(月・祝) 14:00～ 大塚ヴェガホール

問合せは浅野 ☎088-686-1296

こしらへた報部

- 大きな身体にひとなつこい表情、豊かな音楽で私たちが魅了したドーシュさん。本番後、黄緑の第九スタッフTシャツをご所望されました。リユーネブルクの空の下、着てくれていることでしょう。
- アフター交流会に結集した鳴門のフード。鳴ちゅる、鯛しゃぶ、レンコンの天ぷら……どれもこれも評判でした。鳴門のすばらしさを再認識！(広報委員一同)